

社会学の組織論におけるラグビー部の体罰問題

2019年に開催された「ラグビーワールドカップ」によって、今まで日本国内で認知度の低かったラグビーが大きな盛り上がりを見た。日本のラグビーの歴史は古く1874年に来たイギリス人船員が横浜でラグビーを行なったのが始まりと言われている。2021年現在では、日本ラグビーの最高峰であるジャパンラグビートップリーグに16チームが参戦している。2019年のワールドカップ以降日本のラグビーが認められ、トップリーグに世界最高峰のラグビーリーグであるスーパーラグビーから数多くのスター選手が移籍してくるようにもなった。

以上のような盛り上がりを見せるなか部活動における体罰問題が浮き彫りになってきた。2020年に大きな話題となった日本大学ラグビー部の指導者による部員への暴行と未成年部員への飲酒強要が問題となり、その後、指導者は懲戒処分となった。

近年体罰問題が多く見られ処分も厳罰となってきた中で、問題が後を絶たない。そこには、どうして起こってしまっているのか、またどのような環境下で起こってしまっているのかについて、社会学の組織論における観点とアンケートを用いながら調査し問題解決策を探し改善できるよう検討する。